

〔翻 訳〕

『スペクテイター』(16)

——第146号から第155号——

門 田 俊 夫

第146号 1711年8月17日（金曜日）

【スタイル】

偉大といえる人物には、これまで、
必ずどこか神々しい靈感が宿っていた。（キケロ）¹⁾

非凡な才能に恵まれた雄弁な人たちが残した崇高な考えに接するとき、私たちは冷静沈着な心持ちにさせられ、最高の喜びを味わうことが出来ます。キケロの哲学的な著述には、まさにそういった楽しみがあります。²⁾彼の著述には、真実と良識が、非常に魅力的な衣裳をまとって登場しますので、そこには、詩的な作品や民数記が持つ力が伺えます。この数日間、私は古代のこの著者と現代のある著者の虜になっています。私は現在、この二人の著者に感化され、すっかり浮かれた状態になっています。現代のある著者とは、『現世論』を著わしたあの素晴らしい著者のことです。私が最近読んだもののの中に、この著書とほぼ似通ったテーマを扱ったものがあります。つまり、二人とも来世について論じています。現代の著者の考えの方が、聖書からの文章、つまり、黙示録を引用している点で、古代の著者よりもまさっていると私に

1) キケロ『神々の本性について』1.66.167

2) スペクテイター氏がキケロに関心を寄せていることに対しては、異議ありとの手紙が寄せられる。第154号、第158号参照。

は思えます。あれこれと触れたい気持ちはやまやまなのですが、今はほかのことは触れずに、本日の思索に供するために、一方の一節を翻訳し、他方の一節を書き写してみたいと思います。キケロが語るところによりますと、プラトンは死刑の宣告を受けたソクラテスが裁判官たちにつぎのように語ったと伝えています。³⁾

「裁判官のみなさん、私は大きな希望を抱いています。私にとって、死を賜ることは、このうえなく有難いことです。というのは、希望と死は切っても切れない関係にあるからです。死はすべての感覚を取り去り、もうひとつの生をもたらししてくれるに相違ありません。もしすべての感覚が取り去られ、死が時として私たちがむさばる夢を見ることがない単なる深い眠りに過ぎないとしても、ああ死は何と望ましいことであることか。私たちは、人生において、死よりも好ましい日々を幾日送ったことか。だが、実際に死が先人たちの住む場所への移住に過ぎないとしたら、自らを裁判官と呼ぶ人たちの元を去り、真の裁判官といえる、そうです、ミーノース、ラダマントゥス、アイアコス、トリプトレモス⁴⁾といった人たちに会い、正義と真実に包まれて暮らしている人たちと出会えることになるのは、はるかに幸せなことです。あなた方はこの死への旅を不幸な旅と思いますか。あなた方は、オルベウス、ムーサエウス、ホメロス、ヘシオドスと話をすることが無意味なことと思いますか。私は、それが可能になるなら、喜んで死を迎えます。私は、私同様に、裁判官の不正に苦しんだパラメーデスやアイアースたちに喜んで話し掛けます。トロイアに強力な兵を差し向けたあの偉大な王の知恵を考察し、オデュッセウスやシーシュポスと、今お話をしているように、糾弾されはしないかと気にかかる必要がなく、厄介な問題について議論が出来ます。ところで、私が無実だと公言なさった人たちは、死を恐れないで欲しいと思います。

3) つぎの文は、『トゥスクルム論争』1.41の一節の翻訳。

4) ミーノース、ラダマントゥス、アイアコスは、いずれもゼウスとエウローペーの子で、死後冥府の裁判官に選ばれたという。トリプトレモスはエレウシスの王。

善良な人なら、死んでいようと生きていようと、危害を加えられることはありません。その営為は、常に神々が見守って下さいます。私は本日私に割り当てられた運命が偶然の結果とは思いませんし、裁判官や告発人に反論をする義務があるとも思いません。彼らはただ私に危害を加えようと考えたに過ぎないのです。ああ、あなた方を引き留め過ぎました。そろそろ私は死に、あなた方は仕事に、就く時がやって来ました。困難を乗り越切る人は、人間には無理ですが、神々はよくお見通しになられます。」

神々しいソクラテスは、素晴らしい知恵と哲学を備えた人物に相応しい描かれ方になっています。そうです、この上なく偉大な人物として描かれているのです。ここでのテーマは、ほかならぬ自然そのものの消滅です。古代の偉人はなんと栄光に満ちていることでしょう。ソクラテスは持てる時間を観想に充て、人間存在そのものを天界に置いたのです。彼は、自らには極めて明晰に思える理性と天啓に照らして、全能の神の足跡を辿っています。謙虚さと敬虔を堅持しながら神々しい大望を忘れない彼は、創造から可視つまり物質世界の消滅に至る神の摂理を吟味しているのです。自然と摂理が互いに歩調を合せ、つまり、物質世界と精神世界が足並みを合せるのを認めることは、実に喜ばしい思索であったに違いありません。天国と永遠の泉は、清廉潔白の住まいであり、騒然とした荒れ模様の歳月は、邪悪と悪徳の分け前に過ぎません。あっぱれなこの著者が、現世での変遷、あるいは来世での様子を再考し、運命そのものに思いを馳せたとき、彼の全行程に付き添ってきた守護天使は、彼が責務を終えるにあたっては、我が著者以上に力強い口を利いたのです。ソクラテスは、最後に、これまで存在して来た場所に気を配りながら、現世へのいわゆる追悼演説をします。

「どうかこのことは忘れて、この機会を利用して、現世の虚栄と栄光の移ろいやすさについて考えていただきたい。⁵⁾ 離れ去って行く一つの元素の力によって、自然界のすべての虚栄、すべての芸術品、そして人々の労作すべ

5) トマス・バーネット『現世論』第3巻、第7章。スティールは第143号でも同書から引用した。

ては無に帰す。それまで偉大で莊嚴だと賞賛し崇めていたものはすべて、跡形も無くなり、消滅してしまうのだ。そして、飾り気がなく単純な別の形状のものが姿を現し、辺り一帯をおおうことになる。一体、偉大な帝国、偉大な都市、あの柱石、戦勝記念碑、栄光の建造物は、どこに行ってしまったのか。それを見せてもらいたい。碑文を読んで、勝利者の名前を教えてもらいたい。大火に見舞われて、どんな遺跡、どんな痕跡、どんな特徴が、どんな栄誉が、見えるというのか。偉大な都市であり世界の女帝だったローマ、あの永遠のローマは、その支配と恐れによって、世界史に偉大な足跡を残した。今、そのローマはどうなってしまったのか。ローマの基礎は深く、宮殿は強固で贅を尽したものだ。「ローマは飾り立て、馥郁たる暮らしをし、密かに、わたしは女王の位についている者であって、やもめではないから、悲しみを知らない」と語った。⁶⁾の。ところが、ローマに臨終のときが訪れ、ローマは地上から一掃され、永遠の忘却の彼方に連れ去られる。太陽の熱を受けた蠟のように溶け去ったのは、都市や人々の労作だけにとどまらず、永久不変の丘や山々にまで及び、宮殿はどこを見渡しても見つからない。諸国にまたがる世界の屋根アルプスは、その範囲は外洋から黒海にまで及ぶ。この巨大な石も、雨に変わり易い暗雲のように、柔らかくなり溶ける。アフリカの山々も頂が雲の上にそびえているアトラス山も同じだ。凍てついたコーカサス山脈、トーラス、イマウス、そしてアジアの山々。そして、その北には氷と雪に覆われたモロッコのリフの山々。これはすべて、頂の雪のように、消え失せた。「あなたのみわざは、大いなる、また驚くべきものであります。万民の主よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります。」⁷⁾

6) 『ヨハネの黙示録』第18章7節。「彼女が自ら高ぶり、ぜいたくをほしいままにしたのでそれに対して、同じほどの苦しみと悲しみを味わわせてやれ。彼女は心の中で『わたしは女王の位についている者であって、やもめではないのだから、悲しみを知らない』と言っている。」

7) 『ヨハネの黙示録』第15章3節。「彼らは、神の僕モーセの歌と小羊の歌とを歌って言った、『全能者にして主なる神よ。あなたのみわざは、大いなる、また驚くべきものであります。万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実で

第147号 1711年 8月18日(土曜日)

【スティール】

すぐれた演説は、声、表情、身振りの三つを
うまく操らなくてはならない。(キケロ)¹⁾

拝啓

祈禱書の読み方は非常に重要なことでありますが、あまりにもないがしろにされていますので、失礼をも顧みませず貴殿にお知らせする次第です。貴殿の思索にとりまして、これほど相応しいものは他にはないものと考えます。祈禱書の読み方は誰にでも関わりのあることで、社会的に非常に重要なことです。実は、いくら練習を積んでも熟達しないのは不思議なことです。私が考えますに、熟達しないのは、朗読にはほとんど関心を払わないからです。一方、少年の頃とか学校に通っている間は、英語よりも大切だとみなされているラテン語の習得には熱心ですが、英語の朗読に関しては、完全に無視し、朗読するにしてもアクセントとかマナーを無視して全く無駄な読み方をしています。このため彼らには容易には取り除けない悪い癖がついてしまいます。これを矯正する唯一の方法は、私の承知していますところでは、すぐれた才能を持っている人物を誰かお手本として彼らに推薦してあげることなのです。つまり、無知な人への教育はもちろん、学識者をも納得させるに足る適切なお手本を推薦することなのです。

ご承知おきいただきたいのですが、私は、これまで4年以上に渡って、国教会の礼拝は欠かしたことがありません。ところが、先日の日曜日に初めて、祈禱書が実に素晴らしいものであることに気づきました。セント・ジェームズ・ガーリック・ヒル教会²⁾でのことです。お祈りのことばが非常に明晰にか

あります。』

1) キケロ『弁論術』1.2.3

2) セント・ジェームズ・ガーリック・ヒル教会は、ヴィントリ区テムズ・ストリートにあった。1705年以降、フィリップ・スタップズ(1665-1738)が教区

つ力強く読み上げられましたので、私は謹聴しない訳にはいきませんでした。私の視線も心も、いつものように横道にそれることなく、お祈りに専念しました。その時は、美人にではなく、全知全能の神に話し掛けたのでした。それまでのお祈りのことを振り返ってみますと、私はいかにも形式的にやっていたに過ぎないことが分かりました。深く心が動かされましたので、私のお祈りのことばには心がこもっていました。告解は非常に謙虚な気持ちで行い、赦免には心地よい威光がそそがれ、敬虔な喜びにつつまれて感謝の祈りを捧げることができました。私はそれまでには感じたことのない心持ちとなったのです。そこで、苦情の種を取り除くためには、今後開催されるシオン・コレッジ³⁾の聖職者総会では、この優秀な読師殿に朗読をしてもらうことを心から提案します。口を大きく開けることで、柔らかい声が台無しになると恐れている人々が、はっきりと、大きな声で、力強く読むようになるからです。また、腕組みをして、聖書にだらりともたれかかり、粋がって無頓着な格好を付けている人々も、慎みのある行儀を教わり、背筋をきちんと伸ばすようになるからです。そして、まるで自分たちの務めに苛立っているかのように早口で読む人々は、ゆっくり話すようになるかも知れません。私はピンダロス風読師と呼んでいるのですが、⁴⁾一定のリズムを守らない人々がいます。このピンダロス風読師は、単語を5つか6つとてもゆっくり読むかと思えば、その後の単語の5つか6つを今度はとても早く読むのです。つまり、こういった人たちは、ひとつの文でも、前半部を意気揚々とした調子で、後半部を従順な調子で読む訳です。残りの箇所もその繰り返しをします。こういった紳士は、私が賞賛する読師殿の朗読を聞けば、声と朗読の仕方にいかにむらがないかが分かるでしょう。気取りに気づかず、まるで言葉の意味が分かって

牧師を務めた。スタッフズのお祈りは定評があった。

- 3) シオン・コレッジは牧師養成所および救貧院として、1623年に設立された。当時、この建物はロンドン・ウォールのセント・アルフェジ教会に隣接していた。
- 4) ギリシア最大の抒情詩人といわれるピンダロス（紀元前5世紀）は、第58号、第160号にも登場する。韻律は複雑で、詩句は絢爛だったという。

いないかのように、無頓着な読み方をしている人たちは全員、感動的で熱烈な読み方、力点の置き方、単語ひとつひとつの強勢の置き方、文の内容によって声の調子の変化のさせ方を教えられるかも知れません。祈禱書とガゼット紙の読み方には大きな違いがあることは確かです。どうか貴殿から、いかにも紳士然としたなれなれしい声の調子を気取っている人たちに、「免償」「赦免」の代りに「容赦」「放免」と言うのはやめるようにお伝え願えませんか。こういった人たちは、それ相応に古典にも通じた学者でしょうから、ウェルギリウスやマルティアリスを彼らがお祈りを読むときのような慎重さに欠けた読み方をすれば、許し難い罪と考えるに違いありません。

私の考えでは、この無頓着さは「独特の言葉遣い」の汚名を避けたいという気持ちと言葉に対する間違った考えから生じているように思えます。従って、この言葉の起源と意味を明らかにする方がよいでしょう。⁵⁾ある人々によれば、この「独特な言葉遣い」という語は、アンドリュ・キャントという人物にその起源があるとのことです。伝えられるところによれば、この人物はスコットランドの片田舎の長老教会の牧師で、彼の教会に集まる信徒にしか理解できない特有の方言を用いて説教壇から話し掛けるという能力といますか才能を修得していたということです。キャント師以降、この言葉はもっと広い意味で解釈されるようになり、突然の叫びとか哀訴とか異常な調子とか無学な長老教会派の信徒たちのお祈りや説教などにも適用されているのです。でも私は、我が読者諸氏は、長老教会派の人たちとは違うのですから、適切な声の上げ下げや当然の強調とか語勢は、これに含めてほしくないと考えています。(本当のところ、私が聞いています) 非国教徒は、実際に声の上げ下げをしますが、低いところから突然飛び上がったりします。また、彼らには意味も判断力もないために、上げ下げとカリズムはわめきとつぶやきでしかありません。彼らは強調を用いますが、しばしば「もし」とか「そして」といった意味のない小辞に強調を置くという不適切なものになっています。

5) OEDによると、Cant という言葉はラテン語で歌を歌う意味の Cantus に由来するが、詳細は分からないということである。

さて、この間違いが、現在見られるように、人々に多大の影響を与えますと、実に素晴らしい祈禱文句の入っている我が教会のお務めは、さらに一層大きな影響力をもつことになります。非常に感動的で慎ましく同時に神への願いと信頼を示すお祈りが、整然として乱れることなく、つまり、強調すべきところを強調し、声に適切な高低と変化をつけて、結びの文はおだやかなリズムをもって、要するに、お祈りに相応しい語勢でもって捧げられますと、このうえなく大きな影響力をもつことは確かです。

非国教徒の礼拝には、無意味な言葉や文句が、勢いよくさかんに飛び交いますが、我が教会では、無感動な怠惰が支配的になるために、とても高尚な意味に重みがなくなってしまいます。S博士⁶⁾が説教壇で、祈禱書は少なくとも人間の作る慣行と同様に申し分のないものだったのだと語るのを聞いたことがあります。もしこの点で過ちを犯す紳士諸氏が、楽しいことを列挙する人々が口にするさまざまな冗談を嫌々ながらも思い起こしてみれば、その場で滑稽なことはそれ自体不信心なことに過ぎないと考えられるでしょう。この件は彼ら自身の反省に委ねることとして、この厄介な問題に関しては、カエサル⁷⁾の言を引用して締めくくりたいと思います。カエサルは、彼の前で読み上げている人物の声の調子が不規則であることに気づいて、「君は読んでいるのか歌っているのか、どちらだね。歌っているとすれば、ひどく下手だね。」と言ったそうです。⁷⁾

敬具

6) ニコルズによると、この人物は後にブリストルの主教となったジョージ・スモールリッジ博士 (1663-1719) ではないかということである。彼はリッチフィールド・グラマー・スクールでアディソンと同期であった。トーリー党員であり、ジャコバイト派だったが、スティール、アディソンと親交を結んでいたようである。

7) クウィンティリアヌス (35?-95)『弁論術教程』1.8.2

第148号 1711年8月20日(月曜日)

【スティール】

これはとげを抜くのに役立つ。(ホラティウス)¹⁾

寄稿者諸氏が苦情を申し立て、私も記事にしてきました無法は、矯正されるにはほどとおく、私の叱責をものともせず、日々新たな悪弊がはびこり、社交の場に入り込んでいます。テンプル法学院近くのコーヒーハウスから手紙をくれた友人によると、²⁾いつも人前で前奏曲を歌う紳士は、『スペクテイター』の記事を読んだ後さらにひどくなり、歌うだけでは満足しないで、部屋の中央で、グラス片手に、自らの鼻歌に合せて、メヌエットのステップを踏み始めたとのことです。この救い難い人物は、さらにひどいことに、コーヒーハウスという公の場で、婦人に手を差し伸べ、フランス風ダンスやカントリーダンスを始め、パートナーに微笑み、うなずきながら、展開動作に合せて顔の上げ下げまで指示する始末です。³⁾この紳士は、歌い踊り出すまでに満足そうにたっぷり30分は咳払いをし、つばを吐き出してのどの調子を整えるのです。歌い始めるとすぐに、彼は居合わせた書記には、『死を免れて』⁴⁾はこれでよかったよねと語り掛け、大法官府の調書を抱えている若者には、それはオペラの譜面かねと話し掛ける始末です。彼は返事も待たないで、全員の目が集まる中で、違犯への恥じらいも悔悛の情のひとかけらも示すことなく、踊り、歌曲を披露するのです。

この手の若者にはほとんど手を焼きます。「不逞のやから」としか言いようがありません。誰も話し掛けないことです。話し掛ける人は刑罰を受けるに値すると言わざるを得ません。不逞のやからには、砂糖なしのティーやコー

1) ホラティウス『書簡詩』2.2.212

2) 第145号参照。

3) 第67号参照。

4) 1706年王立劇場で上演されたオペラ『カミーラ』の第1幕でボーイ・プレネストが歌う歌。ニコリーニのはまり役のひとつ。

ヒーを出すべきであって、かかわりを極力避けることです。

私たちイギリス人は、真面目で、一般に人前では恥じらいを覚える国民です。ので、ロンドンでこんな連中に出くわすことがあるのは驚きです。どう考えても彼らがこの国の生まれであるとは思えません。他人の目を意識しない目立ちたがり屋とかおしゃべりな連中は、きっと異国の血を引いているに相違ありません。私自身は、おしゃべりなイギリス人を見ると、大層仰天します。⁵⁾ちょうど、生垣にインド松が紛れ込んでいるようなものです。太陽を一人占めして、動物としては生き生きしていますが、人間としては鈍くなるなんてことは、私には思いも寄らないことです。

社交の場で困る無礼にはもうひとつあります。それは大声で喋る連中のことです。この手合いは、私たち全員がまるで耳が遠いかのような喋り方をします。彼らは自分たちの考えを述べるのではなく、ただ単に名乗りをあげてに過ぎません。この連中の多くは、うぬぼれから生まれる無礼の罪を受けてしかるべきです。彼らは自分たちが喋ることは、すべて至言であると考えているか、自己崇拝のあまり、自分たちが関心を寄せることはほかの人たちにも大切なことだと信じ込んでいるかのどちらかだからです。彼らのためにも、私たちとしては、目を閉じることは出来ませんが、耳は気楽に塞ぐことが出来ないことを大変残念に思います。否応なく迫害されるのは極めて不快なことです。この「わめき散らすやから」のつぎに厄介なのは、親しい友人のような態度で近寄って来て、「告げ口をする人」です。私がよく出掛けるコーヒーハウスにもこの手の人がいます。私が秘密を守る人物だと思っているこの人物は、私に近づいて来て、ロンドンの人なら誰もが知っているようなことを私の耳元でささやきます。こういった無礼が生まれる原因を解き明かすのはさほど困難ではありません。これは、自分が博識であることを示そうとする方法にほかならないのです。これ以外の原因は考えられません。宣戦布告している敵よりも、隠れた敵の方が危険ですから、この手の人は、わめき

5) イギリス人の寡黙さはよく知られている。アースコウリ1.425-30および第135号参照。

散らすやからより扱いにくいのです。コーヒーハウスのこの友人には、私のことを秘密を打ち明けることが出来る信頼のおける人物だと考えているようなので、私がこの数年彼の言うことを一言も聞いていないことを通告と受け止めて欲しいものと考えます。告げ口をする人の話のくくり方にはひとつの滑稽な共通点があります。彼らは告げ口をした後で必ず、大きな声で「あなたはそうは思いませんか」と言うのです。そして、再び声を落して何か語り、また大きな声で、「あの人をご存知ですよ」と言います。彼らのやり方はこの繰り返しとなります。自分たちの愚かさを仲間内に留めておく限りでは、事態は悪化しないのですが、残念なことに、彼らは自分たちの尊大さを保つために告げ口をするのです。私は、みなさんがこれまで聞いたことも、書物で見掛けたこともないようなこの手の人物をひとりならず列举できます。すでに世間で周知の情報を彼らがどうして声を潜めて話さなくてはならないのか、私には理解できません。彼らは、事の全容を知らせるまでもないと思われる親友から情報を得たに違いありません。実際、告げ口をする人は、話半分でやめます。「町の人たちが勝手に話題にしかけていることですが、これは実名を申し上げられないほど著名な方から入手した情報なのです。もっと機が熟したらお話できるのですが」というのが彼らの逃げ道なのです。私の友人は、私がこの前町にやって来てからこの方、いつも目配せをして来ます。そして、近いうちに秘密のお話をする積りだとこっそり伝えてきます。彼の言いたいことは分ります。きっと彼は2週間しないうちに秘密を打ち明けるに相違ありません。

ところで、ご婦人方のことを無視して、男性だけにかかわる苦情で紙面を塞ぐわけにはいきません。そこで、愚か者をひとつの試みと交換してみたいと思います。さほど聡明でもないのにそのふりをする訪問者に困っているご婦人方がいらっしゃいます。この訪問者は、いついかなる場合でも、自分の意見に対して執拗なまでに真剣に固執して身を守りたがりです。彼はこれまで我慢して沈黙を守っていたために、彼に有利に作用しており、気ままに振舞っても異議を唱えられることがなかったのですが、現在は、何かにつけて

口を差し挟み、相手に不快感を与えます。有徳の友人および寄稿者のみなさん、私は、こういった被害を受けているご婦人方を救い出すために、ダンスをする不逞のやからと無口な訪問者を取り替え、ダンサーのあらゆる出沒先にこの寡黙な紳士をあてがいたいと思います。それゆえ、彼らには、今後社交の場での振舞い方を教示したつぎの手紙をペニー郵便で送ることにしました。⁶⁾

拝啓

ご承知おきのことかと思いますが、貴殿が私の意見を無視して不規則な行動をなさっていらっしゃるの噂を耳にしました。でも、さほど厳しいことを述べる積りはありません。今夕7時、追伸で触れています場所にご足労いただければ、ご婦人方が控え、音楽の流れている明かりの煌煌とした広々とした部屋に案内されることでしょう。すると、若い婦人が街路に面した窓際で笑っている姿を目になさいます。その女性を誘っても構いません。彼女は貴殿にはお会いしたことはありませんが、他の男性だけでなく貴殿のことも愛しているからです。彼女は生まれてこの方貴殿のことは想像したこともありません。貴殿がことばをかけても、彼女は驚いたりはしませんし、無視しても彼女は気にはかけません。貴殿は笑い者にされている場所をすぐに立ち去って、賞賛される場所へ移動することです。貴殿は尊大な人物ではないのですから、歓迎される場所に足を向ければよいのです。

敬具

6) 1 ペニー郵便は、チャールズ2世時代に税関員だったウィリアム・ドクラが1680年に創設した。ロンドンおよびウェストミンスター市内は、1ペニーで郵便物を配達するというもの。ミエージュによると、郵便物を受け取る店やコーヒーハウスがおよそ500店あり、集配は1時間おき、遠隔地では2時間おきだったという。初期の歴史については、T.トッド『ウィリアム・ドクラおよび他の企業家』ロンドン・ペニー郵便物語、1680-82（エディンバラ、C. J. カズランド、1952）参照。

拝啓

貴殿が訪問なさる相手のご婦人方は、聡明な人というものはこの上なく無礼な方々だと考えています。従って、貴殿が彼女たちから不愉快な人だと思われても気を悪くなさる必要はありません。事実をありのまま評価されないところで、どうして貴殿はわざわざ聡明であろうとするのですか。さあ私たち男性の集まる場所に姿を見せて、貴殿のことを笑っている連中のことは無視するのです。そして本来の貴殿に立ち返って、喋るなり沈黙を守るなりしていればいいのです。あのようなご婦人方のことは、貴殿の家族か姉妹のように考えて、好きなようにさせたらいいのです。貴殿には、共通の嗜好をもつ女性たちの仲間に入り込む余地は残されていません。

生まれながらにして支配されたがる女性は、

ずうずうしい不遜な連中に屈するものです。

こういった女性は、傲慢で、威張りくさった、陽気で、

浮かれ騒ぎ、声高な連中に心が動かされるものなのです。⁷⁾

第149号 1711年8月21日(火曜日)

【スティール】

どんな女性が、男性を狂わせたり、聡明にさせたり、

はたまた、病に臥せさせたり上機嫌にさせたりする力を

備えているのか。欲望を満たす対象を随意に手に入れられる

女性とはどんな女性なのか。(キケロ)¹⁾

本日の思索は、つぎの手紙に対する私の回答をあてたいと思います。

観察者殿

私は地方の紳士に嫁いだ若い寡婦です。主人は私たちの年齢の開きへの代

7) エドマンド・ウォラー (1606-87)『愛について』13-16

1) キケロ『トウスクルム論争』4.32.68に引用されているスタティウスの詩行。

償として私に潤沢な財産をのこしてくれました。こういった境遇では、数多くの愛慕者がいても驚くには値しません。私は熟慮の上、愛慕者を二人に絞り込みました。二人とも若くて、どちらも捨て難い人物です。どなたでも思いつきますように、一方は私よりも資産家で、もう一方は私の財産をあてにして立派な生活を送ることを楽しみにしています。前者は、ご自分の見識に勇気を鼓舞されているようで、常に私に恩義を施しているかのような振舞いをします。彼がいそいそと私にことばをかけて来る様子を見ていますと、これまでもこの調子で数多くの女性に語り掛けていたのではないかと、私はつい嫉妬心を煽られてしまいます。後者の方はどうかと言いますと、私への接し方は、常に謙虚で私のことをとても大切にしてくれます。彼の愛情も心からのものであるように思え、私も相手はこの人しかいないのではと思ってしまいます。でも、どちらが申し分のない夫となるのか私には判断がつきかねます。どうか貴方のご意見を賜りたいものと思います。決着をつけるにはひとえに貴方におすがりするほかはありません。

敬具

シルヴィア

拝復

このような重大なことで私の意見をとの申し出、大変光栄に存じます。そこで、小生に父親の権威を授けて下さったあなたに謝意を表し、小生としましては、父親のような愛情を込めてお答えしたいと思います。あなたはお二方の紳士に関して、人格の面で区別をなさっておられないようです。つまりあなたの関心は、ひとえにお二方の境遇と振舞いにあります。一方が金持ちであるがゆえに慇懃でなく、他方がさほど豊かでないがゆえに従順であるとすれば、両者の行動原理は、その点では変わりありません。つまり、両者とも財産のことを意識した行動となっている訳です。従って、お二方の本性を判断するには、両者の境遇を入れ替えてみる必要があります。この点での議論の混乱を避けるために、金持ちの方をストレフォン、そうでない方をフローリオと呼ぶことにします。²⁾もしフローリオが、ストレフォンほどの財産

家であっても、現在のような振舞いをすると思われれば、フローリオは確かにあなたの相手として相応しい人物です。一方、ストレフォンが、フローリオの境遇であって、現在のフローリオと同じように従順だと思えますなら、ご自分のためにも、ストレフォンを選ぶべきです。なぜなら、人間として同じなら、当然、金持ちの方を選ぶべきだからです。お分り頂けますか。このように、あなたには是非境遇とは関係なく本性を探って頂きたいと思います。なぜなら、あなたが、単に貧しいがゆえに謙虚な人物は、金持ちであるがゆえに高慢な人物と人間性には変りがないと思ひ込んでいらっしゃるからです。

言い寄る人の人物像を以上のように考えれば、つぎは彼らがあなたの外見を考えることになります。彼らが明敏な人であれば、あなたの心の動きに気づきます。フローリオは、財産の点だけで無視されているということが分ります。そんなことになれば、フローリオにとってはあなたは欲得ずくの女と映ります。また、財産の点だけで、ストレフォンを選んだ場合も同じことです。従って、あなたは自分は恩義を受けた方がよいのか、それとも恩義を施した方がよいのか考えなくてはなりません。

結婚生活は、永遠に無味乾燥でいらいらしたものになるか、幸福なものになるかのどちらかです。才も分別もない二人が、双方の不動産および動産の正確な評価に基づいて、両親及び不動産譲渡取扱人から応分の財産をもらって一緒にになると、前者の無味乾燥でいらいらした生活となります。この場合、新婦は、馬や資産の取得と同程度にしかみなされません。財産が彼女にというよりはむしろ、彼女が財産に釣り合うことになります。こういった連中が、通俗な金持ちの団を構成し、目下の人への慈しみの心も、目上の人への敬

-
- 2) この小論の発想は、ボイヤー『コンパニオン』(1706年第3版、195頁)の逸話にある。「金持ちと貧乏人の二人の若者が娘の父親に結婚の許可を求めた。父親が貧乏人の方を選んだのを知って、友人たちがどうして金持ちを選ばなかったのかと尋ねた。すると、父親は、金持ちの方は頭が悪いので、貧乏になる可能性があるが、貧乏人の方は頭がよく思慮深いので、すぐに金が手に入るからだ」と答えた。」

いの気持ちのない人類の厄介者となり、卑劣で、気ままで、無益な人生を送ることになります。彼らは、優しさ、善意、互惠、そして理性と美徳から生まれる気品に満ちた満足感といったものには無縁になります。

慎みを欠く短気な二人が一緒になると、生活はいらいらしたものになります。そして、理性は友人たちの理性を寄せ集めた借り物で、(二人が最悪と考えている) 貧困を追い払うことに細心の注意を払い、富の確保に努めますが、諸悪までも巻き込んでしまいます。こういった人たちは、人前では絶えず気兼ねし、二人だけになると妙に無遠慮になります。つまり、周りに他人の目がある場合には、相手の馬車や振舞いに内心苛立ちを覚え、二人だけになると、他人の人柄や行状をののしります。要するに、人前では煉獄の中に、二人だけだと地獄の中にいる訳です。

幸福な結婚というものは、両者が知り合って、財産とか美醜をむやみに意識したり、無視したりすることなく、お互いが自由意志で相手を決めた場合に生じます。この場合、逆境や病気に見舞われても愛は消えません。つまり、逆境に立ち向かうことが出来ますし、病気は運命として甘受出来ます。あなたが真にこのような情熱を備えていれば、立派な暮らしを送りたいというあなたの気持ちは、あなたの心から消え失せ、身分や地位とは無関係の愛が見つかることでしょう。最愛の人とともに味わう孤独には、女性の場合にも、虚飾や華やかさを超える喜びの種が宿っています。これはあなたご自身で考えてみるべきです。そうすればおのずと答えが見つかります。

あなたがフローリオには少し謙虚に、ストレフォンの自信たっぷりの物腰には見下した気持ちで接すれば、ともに申し分のない夫となるに違いありません。それゆえ、ご自分でお決めになられるのが賢明だと思えます。気に入っている人を別人と取り替えることは出来ません。もし私の助言を無視した方法で相手を選ばれますと、あなたは先々きつとご不満を持たれるに違いありません。その人に本来備わっている資質が素晴らしいものであれば、他人にたまたま備わっている付随的なものはどんなものでも、後から獲得できるでしょう。もっと分かり易く言いますと、人間として申し分のない人であれば、

すぐに財産という贈物にありつけますが、資産のある人が人間として申し分のない人物になるのはそれほど容易なことではないということです。もしストレフォンがフローリオほど洗練されていなく、また、好ましい人物でもないとしたら、あなたと結婚しても、洗練された好ましい人物になるとは思えません。だが一方、フローリオの場合は、ストレフォンと同じくらい豊かになることは可能です。従って、確かな買い物をするためには、確実なことに投資し、お金が欲しいばかりに確実なことを犠牲にしてはなりません。

敬具

第150号 1711年8月22日(水曜日)

【バジエル】

富裕な愚者は誰もが、貧窮を嘲笑する。

ぼろをまとった知者は、嘲笑の的にされる。(ユヴェナリス)¹⁾

この前、田舎に行く前に朝方部屋でぶらぶらしていたとき、新聞の売り子が「金欠の99の災い」と大声で叫んでいるのが聞こえて来ました。実は、しばらく前から、クラブ・ストリートの三文文士連が「災い」に大層ご執心であることに気づいていました。彼らは「結婚生活の災い」「独身生活の災い」「お手伝いに降り掛かる19の災い」「御者の災い」「従僕 of 災い」「極め付けの災い」といった冊子をひと月のうちに次々と発行したのでした。²⁾おそらく、この「金欠」の詩は、こういった冊子がヒットしたことに着想を得たに違いありません。それはともかく、窓の外から何度も売り子の声がしてきましたの、私もいつのまにやら引き付けられ、一般に貧困に伴う不自由さとか屈辱

1) ユヴェナリス『諷刺』3.152-3

2) クラブ・ストリートには三文文士たちが住んでいたという。『結婚の15の楽しみ』(1706), 『純潔の15の災い』(1707), 『娘の申し開き, 独身生活の15の楽しみ』(1707), 『処女の15の喜び』(1709)といった似通ったタイトルの小冊子が発行された。

といったことに思いを馳せることになりました。要するに、それが本日の思索となった次第なのです。まず、貧しい人々が陥りやすい明白かつ一般的な不幸について、つぎに些細な侮辱といったことについて思いを馳せました。こういった侮辱は描写しようとする消えてなくなるようにも思えますが、おそらく、これ自体は不自由さとか屈辱よりもはるかに身を切られることであって、耐え難いものに違いありません。ユーモアと理性を存分に持ち合わせていたユヴェナリスは、貧しい人にとって、お粗末な衣裳をまとっているせいで浴びせられるローマの伊達男たちによるとどまることのない嘲笑ほど耐え難いものはない、と語っています。

富者は貧者に猛烈に襲い掛かり、存分に愚弄する。

破れたマント、擦り切れたベスト、惨めな人物が身につける

こういったものはすべて、物笑いの種とされる。

着古して手垢で汚れたガウンを目にすると、

この人は喪に服しているに違いない、と言う。

靴に穴があいていたり、つぎでも当たっていれば、

あっ負傷している、足にギブスをはめてるよ、

ということになってしまう。³⁾

ユヴェナリスは、こう述べた後で、私が本日の題辞に選んだ感想を付け加えたのです。

確かに、ぶざまで惨めな服装ほど、卑しむべき人物だといった偏見を抱かせるものはありません。もしキケロが肩に毛布を掛けて演説すれば、聴衆の多くは雄弁を称えるよりも、笑ったに違いありません。私は、題辞に選んだユヴェナリスの感想を目にしたとき、無情な資産のために、世間の笑い者に甘んじている人々がいることに驚きました。つまり、私の言いたいことは、才人への第一歩が無精者になることだと思い込んでいた人たちが存在しているということなのです。⁴⁾無精ほど品位を低下させるものがないのは確実に

3) ユヴェナリス『諷刺』3.147-51

4) ミリセント婦人：結婚するまでに、才人だという確かな証拠をつかむわ。

す。無精なところがなくなれば崇高といえる人物はいます。これをどう説明すればよいかは、私には分かりません。説明をするとなると、おそらく、己の中にある別の才覚に思いを馳せることが出来ない狭量な人物に、お愛想をいうことになるかも知れません。これは、一種の犠牲かも知れません。自分では生まれ変わろうと努力しているのだが、人格のある一面に固執することで、中傷を甘受する人がいるものです。だが、この愚かな習わしがどれほど奇妙であっても、これを改めるには長期間に渡る処方があるのではないかと思います。おそらくは、このことがいまだに私たち「異端の哲学者」の間に存在している低俗な定義が生まれる格好の根拠となったのでしょう。⁵⁾

チャールズ2世の治世に、テリー・フィリアスといえる人物が行なった演説の草稿を読んだことがあります。⁶⁾演説の中で、この人物は二人の巧妙な人物について語ります。この二人はおそらく当時の最も偉大な学者だったものと思われます。この両者の親交関係を述べた後で、二人は心も財布も部屋も帽子もひとつだったのだと話を結びます。実業家の人たちもまた、これよりはましですが、これに近い風変わりな事にかぶれたことがあります。私の父親が、自分の若かった頃には、幅広の帽子と短髪と折りたたまずに広げたハンカチが、名士の条件として欠かせなかったのだと言っているのを聞いた覚えがあります。さらにまた、父親は大志を抱いていた人の中に、とても立派な靴紐をつけた人たちがいたと言っていました。

有難いことに、現在では、才人も実業家の中にも、こういった愚行をほぼ

ウォーナー：私がひとつ提供しましょう。あの方は身なりが大層だらしありません。これは才人の確かな証拠ですよ。外見を軽んじますし、おまけにフランス語を喋り、歌を歌い、ダンスをし、リュートを演奏なさいます。

(ドライデン『サー・マーティン・マーオール』5幕1場)

- 5) ア波罗、なぜ(ポケットの穴から慎みなくお尻を見せている)人は異端の哲学者と呼ばれるのでしょうか。それは、古代の哲学者たちは富や飾り立てたすべての虚飾を蔑み、お粗末な格好を是としたからだ。(ブリティッシュ・ア波罗、1708/9年3月23日)
- 6) テリー・フィリアスとは、オックスフォード大学で諷刺演説をするために選ばれた学生のこと。タトラー紙第45号、ガーディアン紙第72号にも登場する。

断ち切った人たちがいます。

ヴィクターは、国のとても重要な用事を済ませてから、集まりに顔を見せます。ご婦人方は全員、彼ほど上品な方はいないと言います。アティカスはどこから見ても現代の最も偉大な才人の一人ですが、彼の身につける衣服や馬車には知恵と学識をひけらかすような点は何一つ見当たりません。⁷⁾そこで、今では、気取った帽子のかぶり方をしても、当世風の髪を着けても、放蕩者とか愚か者に間違われなくなりました。

分別のある人が目指すのは、洒落者と無精者を足して二で割ったものです。オズボーン氏は、息子に衣服は分相応以下よりも以上にしようにと助言しています。立派な身なりにしていると、思わぬ敬意が払われると伝えていきます。⁸⁾事実、私も長い髪を着けていると、銀行の人がいつも最敬礼してくれますし、身なり次第で、手紙の敬称も「様」になったり「殿」になったりします。

本日の紙面の締めくくりとしまして、私自身がごく最近目撃しました珍しい体験を述べてみたいと思います。

先日たまたまテンプル法学院近くの名高いコーヒーハウスに入って行った時のことです。そこへ行くのは随分久しぶりのことでしたが、見るからに貧弱な身なりの老人が入って来て、私の隣に腰を掛けました。老人のコートは擦り切れていました。その下に着ているスーツはともかくも新しいものに見えましたが、コートは明らかに、スーツのためというより、暖を取るためでした。短い髪と帽子はともに、彼の身なりに見合ったものでした。彼は腰を掛けると直ぐに、ティーを注文しました。だが、給仕たちは他の紳士連の注文を聞くのに忙しく、彼に構う暇がありませんでした。老人が無視されていることに苛立っているのが分かりました。彼はその後数回声を掛けましたが無駄でした。やっとのことで、給仕のひとりが、赤砂糖を載せたお皿と欠け

7) ニコルズその他の編集者は、これはアディソンへの言及と考えている。おそらくは、ポープの『アーバスノット博士への書簡』の詩行と関係がある。

8) フランシス・オズボーン『息子への助言』(1672年編、200頁)

たカップに気の抜けたティーを入れて持って来ました。これを見た老人は非常に激怒して、給仕を罵倒した後、全員に聞こえるように、向かい側のテーブルでティーを飲んでいる身なりのよい若い紳士を指差しながら「なぜ自分はあそこの洒落者と差をつけられなければならないのか」と大きな声をあげました。すると給仕は、当店には二種類のお客様がいらっしゃいます、あそこにいらっしゃる紳士は、靴を磨くといつも6ペンス下さいます、と大層横柄な返事をしました。この頃には、この諍いには、自分の名誉が関わっており、一同の目が自分に向けられていることに気づいたテンプル法学院の若者は、手にしていた新聞を放り出し、私たちのテーブルの方に向かって来ました。私たちはどうしたら差し迫った争いを避けることが出来るか思いを巡らせましたが、近づくにつれて、若者が従順に敬意の念を浮かべているのに気づいて驚きました。老人は、若者に向かって、「いいかね。もう一度だけお前の浪費は私が面倒見てやる。だが、今後はお前の親父を馬鹿にするようなならず者たちを元気づけるような遣い方をしてはならないぞ」と語ったのでした。

私としては、どうあっても、召使の横柄さも息子の浪費も認める訳にいきませんが、この老紳士は仮の姿をして出歩いていたために、ある程度正当な扱いを受けたのではないかと思わざるを得ません。つまり、老紳士はあまりにも自分の地位身分に相応しくない格好をしていたのだということです。

第151号 1711年8月23日(木曜日)

【スティール】

快樂が支配的になると、崇高な美徳もすべて
道を譲らなくてはならなくなる。(キケロ)¹⁾

才人でありかつ放蕩者ほど、理性に大きな衝撃を与え、同時に想像力に格

1) キケロ『最高の善悪について』2.35.117

好の題材を提供するものは、ほかにはないと思われます。ある人々からは軽蔑と嘲笑的にされ、またある人々からはこのなく見上げた人物として大真面目に語られるこういった上流人士については、社交の場にあつて、誰彼となく必ず口の端にのぼせます。私の友人のウィル・ハニコムもさかんに話題にします。彼がつぎのように語ったことがあるのですが、私にはどうしても理解できませんでした。彼の知っている才人でありかつ放蕩者は、女遊びをするには歳を取り過ぎた酔っ払いであつたり、交際する相手から好意を寄せられながらも、その一方で相手の妹を誘惑したり、別の奥方と密通したりする生きのよい淫らな若者だつたりするということです。ウィルの言によれば、才人は、5シリング銀貨一枚で女が手に入ると知ると、お金も大層好きなのですが、金で召使を抱き込み、偽りの友情を育み、関係を持とうとします。という訳で、才人でありかつ放蕩者にとっては、単純明快な悪徳は取るに足らないことなのです。容易に手に入る悪ふざけは意に介さず、わずかに偽りの感情が付与され、場合によっては殺人の可能性を残すに過ぎない訳です。かつてほど伊達男のことを聞かなくなったという点において、ロンドンは大層退屈な町になった、とウィルは思っています。もっとも、彼は、伊達男のことを、友情、愛、交際の点では、このうえなく忌まわしいならず者と評するのですが。

快樂が人生の主目的になりますと、必ずつぎのような事態が生じます。心は絶えず快樂を求め、その結果当然、理性と内省の力は根絶やしにされてしまいます。そして、思考力には根気がなくなり、絶えずもどかしげに過度の色欲を求めることになります。

快樂が主目的になりますと、快樂が快樂自身を裏切ります。絶えず快樂に心を傾注しますと、無力感を残すとともに、他のあらゆる事に対して嫌悪感を覚えます。そして、快樂を享受しようとする力も食傷ぎみとなってしまいます。従つて、放蕩者にとっては、社交の季節の狭間は、もっとも卑しい罪人に課せられた期間よりも重苦しいものとなります。放蕩に身を任せてすぐに目覚めるとか、誠意のひとかけらも持ち合わせていない道徳心に欠けた女

にうつつを抜かしていたことに失望している人物のことを考えて見てご覧なさい。これほど重荷に感じ、苛立っている人は他には見当たりません。こういった人物は、一日を有意義に過ごした後の夕べの心地よい黙想とか、ぐっすりと熟睡した後に訪れる朝の晴れやかな気持ちや生気に満ちたはやる気持ちといったことには、全く無縁な存在となります。もはや死が訪れるまで気がやすまることもなく、理性も良識も維持することは不可能です。そこまでは至らないにしても、自分の出会う女性は誰も信じることが出来ないといった不信感に取りつかれることになります。女性を獲得して何が手に入るのでしょうか。獲得するまではあれほどあがめていた当の本人を卑下することになるだけではないか。そして、おそらくは、そんなことをした自己嫌悪に陥るだけではないでしょうか。

快楽は、それに耽溺するあらゆる人に取りつき、人生に備わっている本来の立派な任務に就く暇を与えません。本来の任務に就くことは、当座の陽気さとは相反する行為となってしまう訳です。快楽を求める人物に、ある種の自己満足と同時に、厳粛さの欠如が認められるのは確かです。これは人生に対するいい加減で無関心な態度がそうさせるのです。こういった人物に、困っていることとか心配事とか悲しい出来事をひそかにお話してご覧なさい。そうすると、こまやかな気持ちといったものは、どこかに消え失せ、自らの欲望をどうしたら充足できるかといったことが、前面に出てくるばかりです。つまり欲望充足を追求するあまり、充足出来ないことへの失望感に見舞われるため、自分が純粹の喜びを見失っていることにはほとんど気がつきません。女性が近づいて来ると快楽に目を向け、気持ちは希望に溢れ、表情は陽気に、身振りは優美になります。だが、女性が自らの心を乱れさせ、無力感に陥れ、意気消沈させるような恥さらしな目に会わせ、欠陥を意識させることになるとは気づきません。女性の存在によって、私たち男性の若さは泥を塗られ、老齢は不面目なものになります。

ある晩のこと、ウィルは最盛期を男の腕に委ねてきた数名の醜い女のことについてあれこれと話題にしました。彼の言い方によると、立派な女性を手

に入れたおかげで、自分の評判も高まったとのことでした。ウィルの言う立派な女性とは、心に安らぎを与えてくれる女性のことであり、これまでの分相応な人たちとの出会いの追憶によって、心の支えとなる女性であることは確実です。そうです、正当とは認め難い快楽を分かち合った者たちが、老人になってから出会うときほど、悪徳が異様な姿をあらわす機会はまたとありません。齒の抜けた老婦人に向かって、かつては立派な齒並びでしたね、と語り掛けたり、今は昔となった女たらしに、かつては街の憧れの的でしたね、と語り掛けるのは、称賛というよりは嫌味としか映りません。だが一方、若いときに勤勉と美德に包まれて過ごした人々の老後を考えて見ますと、衰えていることによって、さらに威厳が与えられます。そして、身体にがたがきっていること、つまり、身体がこれほど脆いということは、人類の不幸と見なされることになります。

ところで、もっと分りやすく、私の知っている才人でありかつ放蕩者に話題を転じてみます。あらゆる階級にあって、才人でありかつ放蕩者は中心的人物となりますが、友人、父親、夫としては失格となり、必然的に子孫は不幸せで貧しくなります。こういった人物の遺産といえは、抵当と病弊と生活扶助となります。タイバーンで閉廷されるたびに嘆かわしい談話を残す衰れた人々は、かの地に送られる途上の才人でありかつ放蕩者ということになりました。²⁾

人間としてやるべきことに優柔不断であったり、引き延ばしをしたりするのは、快楽に溺れる当然の成り行きです。紳士における屈辱とか、商人における破産は、人生の主目的を快楽に置いている人の定めです。あらゆる時代において、快楽の追求が、多くの真面目な人たちにも受け入れられてきた主な理由は、偉大な才人の中にこれに身を捧げた人がいるからです。こういった人々には華やかな素養が備わっているので、彼らが関わることはどんなも

2) タイバーンは、エッジウェア・ロードとオックスフォード・ストリートの交差する現在のマープル・アーチのそばにあった。1196年から1783年までの公開処刑場。

のであれ、好ましいものに思われ、また、知性が散りばめられているために、狂気も魅力的になってしまうのです。その証拠に、ひっきりなしに楽しく陽気に、また、機知を交えて、面白おかしく過ごしてきたことがどんなことであるか分かっている人に、その間自分がどうであったかを回顧させてみると、その人物は、直ちにある人には感情を損ねさせるほど辛辣に接してきたのであり、またある人には無礼にも情け容赦なく勝手気ままな接し方をしてきたし、見苦しいほど騒々しく、無様なほど隠し立てなく、無情なほど人を傷つけてきたことに気づくに違いありません。褒めそやされ満足感に包まれた歩みをして来たにもかかわらず、最終的には、自分自身の心の楽しみとして添えることの出来る出来事は何ひとつ思い出せず、他人と心を通わせた思い出も浮かんで来ません。このように、お似合いの快樂に役立つ人だけとしかうまく行きません。大半の人々が、才能も性癖もないのにこのように快樂に走るのはいかにも奇怪なことではありませんか。この光景は、この上なく狂おしいことです。まるで愚か者が狂人をまねているようなものです。この手の快樂は、過度の食事³⁾であり、地方の紳士がよくやる馬鹿騒ぎに過ぎません。こういった享樂の習慣は、素面のときに蘇るほんのわずかな理性の力を借りてすみやかに断つべきです。以上述べてきた才人でありかつ放蕩者は、酒の味が分からなくなるほど飲み、周りが見えなくなるほど煙草を吸い、周りの声が聞こえなくなるほど大声を張り上げます。要するに、正気の沙汰ではなくなっている訳です。

第152号 1711年 8月24日 (金曜日)

【スティール】

木々の葉のように、人々は、今しがた若さに包まれて

青々としているかと思えば、つぎには枯れ果てて地面に散る。

(ホメロス)¹⁾

3) タトラー紙第19号参照：「ノーフォークのある郷士は、毎食2ポンドの団子を食べる。ハンプシャーの郷士は豚肉に、エセックスの郷士は子牛に目がない。」

熟考と内省から勇気と雅量を引き出している軍人との付き合いほど心地よいものは他にはありません。軍人は幾多の危険を伴った出来事を経験しているために、話題には事欠がなく、また、話し振りも非常に率直ですので、分別をわきまえた軍人と同席するほど心地よいものは他には見当たらないでしょう。彼らの語りというか話し振りには、ある種型破りな点があります。この型破りであることに、自分たちの考えを調節し、順序立てて話そうとする人たちとの交わりよりも、暖かく好ましいものを感じるのです。

本日の夕暮れ時に友人のセントリ大尉と広場を散歩しているときのことでした。彼から軍務に就いているときのさまざまな話を聞いて、私は驚きを禁じ得ませんでした。私たち民間人なら、理性や知恵や熟慮をあれこれめぐらせて身構えてしまう死の恐怖は、戦地ではまったく一顧だにされず、突破口を見出すと我先に積極果敢に敵陣に立ち向かって行くということです。私の意見に対して、友人はつぎのように返答したのです。「あなたのように戦地のことを知らない人が驚くのは、ごく当然のことかも知れませんが、少しでも戦いの経験をした人であれば、ある種の消極的な勇気といったものに気づきます。これは普通の人でも、始終大勢と行動を共にしている場合に身につくものです。実際、周りで多くの者が倒れるのを目にしますが、生き残る者も出ます。生き残った者は、自分たちがかろうじて命を長らえたことに気づきます。だが、つぎはどうなるか分かりません。彼らは大体こういったことを漠然と考えながら、空いた時間を利用して楽しみを見出します。彼らは楽しみに集中しますので、束の間の苦勞つまり危険は、陽気、手柄、勝利、新たな宿舎、珍しい冒険を獲得するための安価な出費に過ぎないのです。軍隊の戦闘部隊そして人間一般の大部分が考えているのは以上のようなことです。しかし、いまだかつて、消極的な勇気を持った人が軍隊で名を挙げたためしはありません。軍隊で上に立つ人というのは、日々のことに執着するのではなく、もっと崇高な善を考慮に入れながら、自分で判断して、いつでも地位を

1) ホメロス『イーリアス』6.146

譲れる覚悟のできている無私の精神を持った人なのです。そこで、人間として立派な行動をしたり、当然の任務に就く場合には、いつでも危険を厭わないのです。軍人の目からすれば、自分たちが意図することは、他人との関わりという点では、不確定なのです。そして、自分たちとの関わりでは、失敗は許されません。任務を遂行するしかありません。生死は神の摂理に委ねられている訳です。神が規定なさることはすべて善であるに違いありません。死は軍人にとって常態ですので、恐れるのは馬鹿げたことです。私たちの身が恐れているだけでは守れないということが確かな場合には、恐怖は意味を持たなくなります。従って、恐怖から逃れることは出来ないという事実を根底に据えたうえで、恐怖を直視する不屈の精神を培わなくてはなりません。死の必然性を甘受する気持ちがなければ、何一つ華々しい活躍は出来ません。だが、いったんこの境地に達すれば、軍隊生活の喜びは、高尚な人が経験する喜びと同じくらいに大きなものになります。理性の力によって、それまで恐ろしく身の毛のよだつものに思えていたあらゆることに、成功したいという意識と誉れを渴望する気持ちの入り交じったある種の美が付与されます。さらに付け加えると、それまで頭角を現すことのなかった多くの人々に伺える危険をものともしない気持ち、人間に備わっている本分を守りたいという当たり前の気持ち、普遍的な大義、顕在化する美德などが、無私の精神を培う誘因となります。以上が指導者となる資格を有する軍人の英雄的な資質です。以前お話した他の人たちに関しては、私にはその様子は分かりかねますが、思案しないのが癖となって、危険が差し迫っても、同様に無頓着となっています。そうです、私は陽気なフランス人のことが忘れられません。このフランス人は戦闘であるすぐれた士官（この士官は絶えず軽蔑とひやかしを交えながら指揮するのが習慣となっていました）に率いられていました。そして、彼は戦闘が始まったときに、負傷しましたが、自分では致命傷だと分りました。このとき、彼は「あと1時間生き延びたいのだが、そうすれば、あのへまをやった伊達男がこの事態をどのように切り抜けるか確かめることが出来るのに」²⁾と思ったのです。」

「同じ騎兵大隊で行動を共にしてきた二人の若者のことを憶えています。食事も酒も術策をめぐらすのも一緒でした。一言で言えば、二人の情熱も気質も一致しており、お互いに助け合っているように見えました。ある黄昏どき、私たちの部隊は川にさしかかりました。そして、二人が配属されいる騎兵大隊は、出来るだけすみやかにフェリーボートで移動することになりました。一人がボートに乗り込み、もう一人は他の兵士たちとともに、岸辺で整列してボートが引き返して来るのを待つことになりました。ボートが動きはじめたとき、馬が一頭暴れ出したために混乱が生じ、不注意にも手綱を脇に抱えていた若者は、馬が跳びあがったために川に振り落とされました。岸辺にいた友人は、溺れているのは誰だろう、と叫びました。君の友人のハリートンプソンだ、という答えが即座に返ってきました。この友人は大層真面目に、そうか、彼の馬は狂暴だからな、と答えました。親友からわずかこれだけのそっけない言葉しか発せられなかったことを知って、当時20歳になっていなかった私は、非常に節度をわきまえた友情というものがあることを教えられました。このように、親愛の情とか人生を動かすその他の原動力も、その時々身の回りで発生する手の放せない事件によって根絶されます。別人で埋め合わせが出来る場合は、嘆きはしません。交際にデリカシーを欠く場合には、つぎに出会う相手もそれまでと同じことになるでしょう。こういった人たちにとっては、国の荒廃や住人の悲惨さ、略奪された人々の叫びや大きな不幸を背負った人々の無言の悲しみは、驚くに値しません。彼らは、憐れ

-
- 2) この挿話はコンデ親王の支配下にあったフルリーユ勲爵士団の中将に関係がある。この中將は、1674年8月11日、スペイン領ネーデルランドのスネフの戦いにおいて、オレンジ公ウィリアム3世軍攻撃の命令を受けた。彼がそういった攻撃を仕掛けると、大量の兵士を失う危険性があると指摘したとき、コンデ親王から臆病だとののしられた。そこで彼は命令を遂行することにしたが、彼自身およびその他多数の將校が命を落とすことになった。彼は死を前にして、「親王のために命を落とすのだから、自分の命は惜しくはないが、あと数時間命を長らえて、親王の最後というよりは、親王の作戦がどんな結末を迎えるか見てみたいものだ」と語った。(ピエール・コスト『ブルボン王家ルイ2世伝、故コンデ親王』テイト訳、1693年、2.180)

みを忘れ、榮譽に無神経で、ひたすら恥辱を受けないことだけを意識しながら、ささやかな自己の欲求を満足させることに執心します。軍隊は大半がこういった連中からなっています。だが、今私が思い浮かべる人物こそ申し分がありません。彼は命令されたことにはどんなことであれ危険を厭いません。士官は全員信義を重んじる紳士ですので、友人であり仲間です。また、兵卒は全員同類ですので、兄弟です。彼は周りの人たちみんなから愛されています。彼が下士官兵を検閲するとき、みんなは彼が危険にさらされるといいと考えます。なぜなら、身命を賭して彼を助ける機会が持てると考えるからです。彼の指揮する連隊には、相互に愛する気持ちが飛び交っています。みんな、指揮官が自分たちを罰するのではないか、気分を害するのではないかと考えて、彼と彼の隣人を怖がっています。彼の連隊はこんな状態で、人間とはいかなる存在であるかが分かっています。そして、自分たちの行く手を妨げることに関しては、心を痛めます。手当の配分にさいしては、彼は自分が華美な服装をするとすると、仕立て屋よりも劣っていると考えます。そして、少しでも分不相応なことをすれば、この上なく強欲な周旋屋よりも劣っていると考えなのです。勇士よ、不滅の榮譽は果報であり、不滅の幸福は報酬なのです。』³⁾

第153号 1711年8月25日(土曜日)

【スティール】

生命には、他のあらゆることもまた同様だが、
 自然から割り当てられた限度というものがある。
 芝居の最終幕のように、その終局は老齢だ。
 我々は、特に欲求が充足されているときには、
 老齢に伴う労苦は遠ざけた方がよい。(キケロ)¹⁾

3) ニコルズはこれをタトラー紙第144号の「勇敢で誠実なシルヴィアス」コーネリアス・ウッド中將への賛辞と考えた。このとき、ウッドはすでに引退して、ケンジントンに住んでいたが健康を損ねていた(1712年5月17日逝去)。

社交の場ではお門違いの願望をあれこれ耳にしますが、若返りたいという願望ほど、紳士つまり教養人にとって不似合いなものはありません。この願望は、通常、過ぎ去り日の行動を思い起こさせる何らかのものを目にしたときに湧き起こるようです。今となってはもはや繰り返せないことは不名誉なことではなく、むしろ再現出来ること自体が恥ずべきことなのです。かつて思いのままであった筋骨隆々とした体力を取り返したいがために、若さを求めるとすれば、それは愚かさあるいは自墮落さの現われと言えます。キケロの言うように、老人が若者の体力を切望するのは、若者が雄牛や馬の体力を切望するのと同じくらい馬鹿げたことです。²⁾ こういった願望は共に自然の理法に背くことであり、正義、法、理性とは相容れません。老人は誰もがかつては若者だったのであり、若者誰もがいずれは老人になるのですが、老若といった人生における二つの段階の間には、とても不自然な誤解が生じているようです。この不幸せな両者の没交渉は、若者における尊大な傲慢さ、つまり勝利の喜びと、老人における分別を欠いた意気消沈ぶり、つまり自己憐憫から発生しています。情熱や大望が健全で賢明な若者や淫らでもなく放蕩でもない老人にとっては、本日の思索は関わりのないことです。だが、年長者の感情を害する尊大な振舞いをする若者や厚かましく得意げに振舞っている姿をうらやむ愚かな老人は、軽蔑と嘲笑的になります。軽蔑と嘲笑というと、厳しく思えるかも知れませんが、肉体的快樂の追求に魅入られている若者に助言を与えたり、不能になりながらも欲望に振り回されている老人に憐憫の情を寄せるとしたら、これしか手だてはありません。若者が公の場で、欲望に駆られて放埒な振舞いを見せると、彼らの姿は、冷静な判断が出来る人からすると、かりに愚行の最中に死によって妨げられないしにしても、彼らは必ずや卑しむべき老齢を迎えるに違いないと映ります。老人が欲求充足が過去のものになったと嘆くときには、その人は期せずして摂理に反した不自然な振舞いをしていることになります。そのことに不満を抱く老人の状態

1) キケロ『老年論』23.85

2) 『老年論』9.27

は、上は天使から下は虫に至るまで、いかなる存在の理性と良識を当てはめてみてもそこから外れてしまいます。好色な老人が事の成り行きにやきもきし、創造物の中で彼だけが不満居士となっている様を考えると哀れに思えてきます。つまり、あらゆる創造物の中で、摂理に従っていないのは、彼と悪魔ぐらいのものなのです。ところで、老人が加齢によって何を失ったのだろうか。青春時代の情熱は、以前のように意のままにはなりません、理性は今では情熱にかき乱されることもなく、若いときよりは強力になっています。先日、ある老紳士が、友人と話をしているときに、(若いときに二人して経験したある大胆な行動を思い起こしながら)「ねえ、ジャック、あの頃は幸せだったな」と大きな声を出しました。すると、友人が「そうだね。でも、今は自分たちのやるべきことをあの頃よりも冷静にやっていると思うよ」と応えたのです。老人は日盛りが過ぎるほど人生の行路を歩んできたことに、大きな満足感を持って当然なのです。放蕩な若者に見られるように、生活そのものが熱に浮かされているときには、喜びは熱病におかされている人が見る夢にほかなりません。若さを取り戻したいと考えることは、健康になった人が、病の発作に見舞われて夢うつつで味わった華やかな宮殿や優美な散歩や花の咲き乱れる牧草地がなくなったことを残念に思うのと同じくらい馬鹿げたことです。

人間として理に適った相應の喜びはどうかとなりますと、年々、立派な評価を受けたいという意識、来世への想い、誠実な人たちへの尊敬の念と彼らとの交際といったものを喜びとする気持ちが増大します。健康状態が持続していますと、人生の後半部分は、理性の目からすると、確かにより望ましいものに映ります。有意義に過ごした青春時代の思い出は、穏やかで純粹かつ優美な喜びを心に与えてくれます。不幸にして満ち足りた気持ちで青春時代を回顧できない人にとっては、自分たちが愚行を繰り返す恐れがないということ、そしてまた、自分たちが今愚行を嫌悪しているということが、大きな慰めとなりうるのです。昔の人はうまく言ったものですが、老成したいと考えている人は、早く着手すべきなのです。物を奪われてから放棄するのでは

手後れなのです。それゆえ、老齢に達しないうちに、若さを追い求めることには別れを告げる必要があります。そうでないと、手足がつかいものにならなくなってからも、肉欲を求める気持ちが消えることはないでしょう。先の攻囲で片腕をなくした気の毒な人物は、チェルシー病院で、朝方冷え込むといつも、フランドルに眠っている指先が疼くと口にします。³⁾

華やかな社交界に姿を見せ、取るに足らない美点を称賛されたいというひとりよがりな気持ちが、若者には老人に対する軽蔑の気持ちを抱かせ、老人には若者の持つ資質をしぶしぶ断念させることになります。男女両性にあるこの気持ちが、事態を逆行させ、心の自然な流れを変えているのです。このため、自然と理性の命ずるものへの是認と反感を妄想と混乱に組み込んでしまうのです。

男女両性とも徳高い人の加齢には権威が伴い、若者の喜びより好ましいものになります。敬意を持って挨拶を受け、付き添われ、助言を求められることが喜びとなれば、この喜びは徳高い老人を失望させることはありません。老若の欠点や長所を列挙してみますと、両者にはとても似通ったところがありますので、双方に思いやりに満ちた交流が欠けているのは信じ難いものにも思えます。キケロを引き合いにして、老若について考えてみますと、⁴⁾死との密接な関係については、死に近づく機会は老人よりも若者の方が多いのです。若者はよく「彼の命夜までもつかない」と言います。往々にして、若者の方が病気に罹りやすく、病状は重く、回復はおぼつかなくなります。実際、若者は長生きを望みますが、老人はそうはいきません。だが、若者の希望は根拠が不確かです。なぜなら、不確かなものを信じることほど愚かなことはないからです。ところが、老人には希望を寄せる余地は残されていません。それ

3) チェルシー病院は傷病のために退役した軍人の病院。建築家クリストファ・レン (1632-1723) の手による。1682年から着手し、完成には10年を要した。ハットンによると、恩給生活者の住まいというより王子の宮殿と思える立地と建物であったという。

4) 『老年論』19.67-68

でも、老人の方が若者よりも幸せです。老人はすでに若者が希望しか出来ないことを享受して来たからです。若者は長生きを希望しますが、老人はすでに長く生きて来たのです。だが、人生において、単に時間の長さだけに意味があるとは思えません。ただ単に存続しているということで有り難がられるものはないのです。時間、日、月、年は流れますが、私たちが何年、何月、何日、何時に亡くなるかは重要ではありません。優れた役者に寄せられる拍手喝采は、どんな場面で退場しても、沸き起こります。このように、分別のある人の人生の場合は、徳高い紳士であることを証明するには、短い人生であっても十分事足ります。徳高くなくなった場合には、長生きしすぎていることになります。一方、もし死を迎えるまで徳高い人生を送れるのであれば、その人がどれだけ生きるかはほとんど取るに足らないこととなる訳です。

第154号 1711年8月27日（月曜日）

【スティール】

そもそも悪徳の極みに達した人は
いまだかつて誰もいない。(ユヴェナリス)¹⁾

拝啓

貴殿はしばしば女性の世界に関わる事柄について触れられ、男性にはいつもとても厳しい見方をなさっておられます。だが、私はこの間ずっと、残念ながら、貴殿が女性のことはほとんどご存じないのではないかと考えています。大半の女性は、私たち男性の一般的な悪徳に対して、貴殿が思っているほど腹を立ててはいないのです。失礼ですが、貴殿は、かつての私のように、風変わりで憤み深いお方だと思われます。そこで、簡単な私の自己紹介と私がなぜ余儀なく、ご婦人方とうまくやっていくために、密通とか飲酒とか遊びとかその他才人でありかつ放蕩者にとって必要なあらゆることに

1) ユヴェナリス『諷刺』2.83

手を染めるようになったのかをお知らせしたいと考えます。

私は紳士として育てられ、教育は大学で最後の仕上げをしました。大学では、非常に高潔で学識を備えた人物に指導を受けました。このことが、私の振舞いというか物腰に、行動家というよりも思索家的なものを形作った原因であるのは否定しません。ある日のこと、性格が全く正反対の人物から、君はまだ童貞だね、とからかわれたのです。その時、私は貞淑な婦人と交際していましたので、そのあてこすりに賛同こそすれ、気分を害することはありませんでした。ところが、これは私の考えていたこととは全く逆の結果をもたらしたのです。その後、私は当の婦人からもまた他の知人みんなからもとても冷ややかな扱いを受けることになったのです。そのことがあってからというもの、私が部屋に入って行くと必ず、乙女が来たぞというささやきが聞こえて来るのです。ユーモアのある若い女性は、何度か、どうして私たちよりあなたの方がお分かりになるのかしら、と言うのでした。その種の発言があると、その後では、たいてい大爆笑となりました。要するに、私には彼らと同様に無垢だということ以外にはこれといった欠点はありませんでしたので、私は彼らにとっては取るに足らない人物となり、からかいの対象にしかならなかったのです。私はこのことをとても重く受け止めたので、私のことを笑った連中のように、人当たりのよい人物になることにしました。でも最初から私のことを知っている人たちのいるところで厚かましい振舞いをするのは意味がないと考えました。これまで私が姿を現しているところではどこでも、私の慎み深い性格は知れ渡っていますので、新たな場所で顔見せをすることにしました。第一歩として私が選んだ場所はアストロップでした。²⁾そして、学究肌の人物の多いその地で、私はまたたく間にこの上もなく厚かましい人物との評判を獲得しました。この成功に意気揚々とした私は、

2) サイモン・ハニコームの社交場（温泉場）めぐりは、だんだん高級な場所へと移動する。オックスフォード近郊のアストロップ・ウェルズから始まって、セント・エドモンズベリー、エプソム・ウェルズ、スカーバラ、タンブリッジ、そして最後はバースへと。これが当時の洒落者の常道だった。

女性を口説き愉快に過ごしました。女性を獲得した私は、いつまでも同じ女性にとどまっているのは紳士として似つかわしくないと考えて、州境を越えベリーへと向かいました。この地でも芳しい成果をあげました。武者修業の最初の夏は、この二ヶ所となりました。この年の冬は、驚かれることですが、ロンドンに戻ってきて、また元の慎み深い私に返りました。だが、以前に私のことを笑ったご婦人方が、「おやまあ、あの殿方なんて素敵におなりでしょう」と言うのでした。冬が終わる頃には、劇場で懸念な関係も生まれたので、冒険心に拍車がかかりました。そこで、つぎの夏には、アストロップにもベリーにも引き返さないで、私にもエプソムに登場する資格が出来たのだと考え、若い女性に随行しその地へ向いました。二人の関係は羨望の的となりました。さらにエプソムからスカーバラへと足を伸ばしました。目的を達成した私は、3年目にはタンブリッジへ、そしてその年の秋にはついにバスに打って出ました。今や私はご婦人方へのほどよい喋り方を習得しており、沢山の知己を得ました。私は自己改良のために、これを最大限に利用しました。数年におよぶこの過程で、真面目で慎み深い人物というものは、男女両性から、まさに生気のひとかけらもない無骨者と見なされていることが分かりました。面白おかしく酒を飲み、娼婦と一夜を共にした男が、翌日、最大限に敬意を表している女性たちの前でその話をするということはよくあることだったのです。こういった男は、おそらくは、扇で叩かれたり、まあいやらしいと叱責されますが、怒りはしても女性たちの顔には明らかに是認の表情が残りました。要するに、変わり者の悪党、卑劣漢と呼ばれますが、男は肩をすくめ、誓い、もう一発くらい、何を誓っているかは彼にも分からないのですが、また誓い、それで万事丸く収まります。男性が女性の前で賭け事をし、自分の心意気を見せようとして直ちに分不相応な金額を賭けるのは、よく見掛けるシーンです。これまでの長い経験から、非常にいい加減で放埒な振舞いというのは、資産家の女性への気取りから生まれるのだということが分かりました。このタイプの人々がいるのに刺激されてすぐに、私に残されている真面目な教育を受けたことの影響を払拭しました。ロンドン

でもそうですが、上記の場所で、私は常に自由奔放に生きている人たちと交わりを持つようにしました。そのうちに、私は男性の間では結構な放蕩者、女性の間では結構粋な男として通用するようになりました。実を言いますと、私は資産に限りがあることに鬱々したこともありましたが、私に資産家と結婚する資格が出来たことが慰めとなったのです。

しばらくこんな生活をし、自己改良が完成したとき、私は27歳になっていました。そして、健康状態も下り坂になり、財産もまたたく間に無くなっていきました。そんなとき、たまたま非常に素敵な若い婦人と交際することになりました。洒落者なら一般的ですが、私もあの手この手取り混ぜて彼女を楽しませました。窓の下で見張ったり、嫉妬深い夫から逃れたり、その他さまざまな危険を犯しました。この若い女性は世知に長け喋りの巧みな私に魅了されました。私の話に感動した彼女は、まるでデズデモーナのように、「本当に珍しい、想像もつかないほど珍しい話だと言ってくれたのです。」³⁾要するに、彼女は私のことを気に入り、あっけなく私と結婚した訳です。彼女の清浄な美しさには大変な魅力が備わっていますので、長年に渡って送ってきた乱脈な生活を嫌悪し、もう二度とそんな生活には返らないと決心するほどなのです。

観察者殿、なぜこのようなことを記したかといいますと、貴殿がつぎに女性への賛辞をなさるさいには、女性に愚かな称赞をしないよう説教していただきたいからです。それは私が悪徳にうんざりしているからであり、また、これは私の本来の姿ではなかったからであり、今や自分を取り戻しており、私を信じて、寛大な心を寄せてくれている親愛なる彼女を軽蔑と貧困の淵に引きずり込みたくないからです。同時に、立派な教育を受けた若者は、些細なことで自己改良しなくてはならないと思い込まないで欲しいと思います。部屋に入っていくときの素晴らしい雰囲気とか快活かつ優美に自己表現する礼儀をわきまえた大胆ささえ備わっていれば、徳高く分別をわきまえた紳士

3) 『オセロ』1幕3場160から161行。

は、女性たちの間でちやほやされる皮相な生意気な連中を恥じ入らせることが出来ます。

観察者殿、貴殿が賢明なお方であることには間違いがありませんが、このところ貴殿はキケロにご執心ようですので、私の述べますようなことは取るに足らないことと軽蔑されるのではないかと危惧します。でも、これは人生において極めて大切なことなのです。貴殿のお力で女性の目を開けて頂きますと、父であり夫であり兄弟である人々全員にとっては、大いに有難いことです。

敬具

サイモン・ハニコーム

第155号 1711年8月28日(火曜日)

【スティール】

現在軽薄で取るに足らないと思えることが、
重大な結果をもたらすことになる。(ホラティウス)¹⁾

見苦しい放縦については、紙面で一度ならず取り上げたことがあります。こういった放縦が起こる場合には、一方は心ならずも避け難い状況に巻き込まれてしまいます。偶然、旅先で同じ馬車に乗り合わせたり、公共の場で隣り合わせになったりしたときに降り掛かって来ます。私がこの種のことに對して意見を述べたとき、人と接する何らかの職業に就いている女性陣から数知れないほどの書信が寄せられました。その書信は一様に、自分たちの面前で繰り広げられる常軌を逸した振舞いのために否応なく置かれている自分たちの不幸な境遇を世間に明らかにして欲しいと催促しています。これは分別つまり礼儀作法を欠いたすべての伊達男に相應しいテーマだという訳です。ここではこういった苦情をひとつふたつ紹介することにします。

1) ホラティウス『詩の技法』451

拝啓

私はコーヒーハウス経営していますが、いつぞや貴方が偶像とおっしゃっていた女性にあたります。²⁾その時、私は大層からかわれましたが、もし貴方が私のことを別の面から正當に評価して下さいましたら、からかいの元をお作りになった貴方のことを心から許して上げたいと思います。貴方へのお願いは、(その他の点ではとてもよい方たちなのですが)私のお店のお客さんたちに、私がカウンター内に閉じ込められて身動きできず、かしこくも私を慰めようとなさる淫らな話に耳を塞ぐことが出来ないのだと分かせて戴きたいということです。³⁾みなさんは競い合って、私にこの上なく淫らな話を聞かせようとなさいます。同時に、そのうちの6人は、カウンターにだらりともたれかかり、私の顔をジロジロ見つめながら、それぞれ妄想に耽りながら私の表情や物腰を解釈する構えを取ります。私は無抵抗の状況に追いやられて、目のやり場、手の置場に困り、どうしてよいか分からなくなります。だが、狼狽する様子が物笑いの種とされます。お客さんたちが最後には無味乾燥な素振りを見せながら、陽気にまた巧妙に、彼女を一人にさせてやろう、彼女にも分かっているさ、というのが耳に入ります。何卒、貴方から、紳士諸氏に、これはどう見ても品位を欠く行為だと教諭して下さいませんか。女性がコーヒーハウスを経営しても、慎み深く振舞うことが可能だとお伝え願えません。何卒、私は余儀なく被害を受けているのであって、逃げ出すことが出来ないのですから、本当にこういった無礼は許し難いと言明して下さい。実際、正直に働いて得る収益から生まれる人生の楽しみは、朝から晩まで耳にする果てしなく続く、退屈で無礼な悪ふざけのためにすっかり台無しになっています。一言で言えば、私には耐えられません。お願いですから、彼らに、私が今度はカウンターでペンとインクを使って、彼らの言うことを記録し、貴方のもとに送り付け、紙面で公表して欲しいと言っているとお知らせ下さい。厚かましい表情や物腰で優位な立場に立っているから分からないの

2) 偶像については、第73号、第87号参照。

3) 第132号参照。

でしょうが、彼らがどれほど空虚なことを喋っているか分かると、彼らも少しは正気に戻り、私への無礼な振舞いをうしろめたく思うかも知れません。

敬具

偶像より

この主張はもっともなことであり、憤りを覚えざるを得ません。こんな無慈悲な扱いをする連中には罪の意識を持たせなくてはなりません。彼らは慎み深く率直なまた純真な振舞いを傷つけています。この手の受難者はこの寄稿者一人にとどまりません。というのは、王立取引所とニュー・エクスチェンジからも同じ話題で長文の手紙が届いているからです。その手紙によりますと、ある若い伊達男は手袋を買う金がないのですが、手袋をはめるのを手伝ってくれる若い女性に、巧妙に淫らな冗談を言おうと懸命に努力しているようです。このならず者たちが質素で控え目この上ないお客のようにしみたれた金の遣い方をすることが、災難を大きくします。おまけに、彼らはほかの人たちより30分は長く、カウンターに居座りますので、婦人帽販売人と無礼を共有したがっている他の客を寄せ付けず、彼らを別の店に追いやることになります。エクスチェンジ・アレーから届いた何通かの手紙には、同種の不幸がふんだんに盛り込まれています。⁴⁾ここの女性陣に言わせると、著名な商人の中には、もし私が彼らを彼女たちの店から追い払えなければ、近々破産する人たちがいるとのこと。周囲の人たちの誰もが敬意を払う対象とならないのは非常に奇妙なことです。一度に二人三人と集まって来て戯れる姿を見るのは耐え難いことです。彼らはつまらない陳腐な冗談を交わそうとして、陽気に振る舞っているに過ぎません。だが、このことによって、女性たちがいくら強く我慢できるにしても、間違いなく彼女たちの信用は傷つけられます。こういった付き合い方についての的確な説明をするとなると、

4) エクスチェンジ・アレーは、コーンヒルの南からロンバード・ストリートにかけての短いが重要な通り。王立取引所のほぼ正面にあたる。ジョナサンおよびギャラウェイ・コーヒーハウスがあり、商人たちが出入りした。

彼らの親交が通常の売買のやり方を構築していることは確かです。彼らが実際にやりとりすることに、紛れもない嘘をつくとか、不公平な要求をしたり、値をつけたりしないで、挨拶の交換が期待できる訳です。恋人たちの交際とある意味では敵であるその他の商人たちの交際には、確かに、愛想のよい敬意といったものが随分伺えるに違いありません。封印された証書とか銀行券を重役が気に入った相手に初見で渡すのは、かなり勇気のいる行為です。そうでなければ、シティーで油を売っている人たちは、別の場所で油を売っている人たちよりずっと無分別ということになります。ニュー・エクスチェンジでは、お金がないから雄弁なのですが、シティーでは、能弁の不足をお金で補わなくてはなりません。

一般的となっているこの愚行を真剣に受け止めますと、世間がまさに人格の売買にいたるまで金銭ずくになっている場合には、若い女性は、たとえ神からそれほどの魅力を与えられていないにしても、うまく結婚で折り合いがつかないのは物悲しい事態だと気づくことでしょう。つまり、こういった宿命では、厄介なことに、女性は、生計を得るために商売の道に入ることは出来ず、美点も優れた点も本人に不利に作用し、まるで娼婦のように扱われることになってしまいます。世間の動向に注目している人にとって、破産にさらされる身を誤った人物の境遇ほど物悲しいものはありません。破産という目に会くと、女性をもてあそんできた愚か者は、女性を汚名や侮辱や心身の異状から守る手だては何一つ施しません。女性は当然男性以上に無力です。信義を重んじ、分別のある男性は、女性と交際する場合には、この点を考慮しておいて当然なのです。この点を十分考慮すれば、軽率さとか下品さとか馬鹿げた振舞いはなくなります。その他の商いの場合も同様ですが、こういった女性が経営する店に入って行き何も買わないで出てくるのは、随分無礼な振舞いなのです。本日の思索の締めくくりとしては、シティーの素敵な婦人帽販売人からもらった手紙を掲載することにします。

美についての貴方の記事拝見しました。⁵⁾私自身には何も思い当たるところがないことに非常に驚いています。確かに、私にはこれといったところは一つございません。かなり羽振りのよい商人の方を何名か存じ上げていますが、この方たちは取引所に出掛けるように、必ず私のお店に立ち寄って、私のいたずらっぽい目について何かと茶々を入れます。あるお方は週に一度か二度私に全商品を混ぜ返させます。そして、綺麗な手の動きを見るのは慇懃な応対に過ぎなかったのだと告白します。その後で袖口用の短いリボンに3ペンス出します。彼は自分のことを非常に快活な人物だと考えています。一日中せわしなく動き回っている実業家だけがお店に出入りしているのは快いものではありません。美人である私には美しさゆえの処遇しかないのでしょうか。どうか私の優しい眼差しを査定していただくか、私の姿を見るためにやって来る人たち全員にお金を出していただくかして下さい。そうしないと、顧客不足のために、やがて私は崇拜者たちによって滅ぼされてしまいます。アルバシングもユードーシアも、またほかの女性も、私どものような状況下であれば、同様のあしらいを受けることでしょう。⁶⁾そういう訳ですの
で、どうか私どものようなさほど美しくない女性が置かれている難儀な状態をお察しいただきたいと考えます。何卒よろしく願いいたします。

早々

5) 第144号参照。

6) 第144号参照。